

この後、二大学から各館の電算化の現状と問題点について意見発表を行い、熱心な討議が行われた。

第2部：相互協力活動の推進

(1) 現物貸借・文献複写料金

「相互貸借の推進方策調査研究班」第一次報告作成までの経過とその概要について課題報告された後、二大学から当該大学での相互協力活動の取り組みと問題点について意見発表がなされ、引き続き「報告書」の指摘している問題点について活発な討議がなされた。

(2) 大学図書館の公開

課題報告は「大学図書館の公開に関する調査研究班」設置に至る経緯及び報告書の概要、さらに62年8月、全国立大学図書館を対象に実施されたアンケート調査の結果について行われた。

討議のなかで、四大学の実情報告を受け、実施にあたっては、人員、施設面等の問題点の指摘があった。しかし、公開は社会の要請として行わねばならない課題であり、可能な限り学外者へのサービスをすることが必要であることを再確認した。

大学図書館研究集会（第8回）開催

今回で8回目を迎えた大学図書館研究集会（日本図書館協会大学図書館部会及び国公立大学図書館協力委員会の共催）は、11月25（水）～26日（木）の2日間、大阪市立大学で開催された。「大学図書館のサービス改善の方向を探る－イノベーションへの対応－」をメインテーマとした今回の研究集会には、北は北海道から、南は沖縄まで、全国の大学図書館から約270名（204大学）が参加した。

第1日目の午前中は、開会式の後、安達淳助教授（学術情報センター）から「学術情報システムの最近の動向と近未来の展望」と題する基調講演があった。午後から第2日目の午前中までは、三つの分科会にわかれて、コーディネータを中心に活発な討議が行われた。午後の全体会議では、2日間にわたって討議された分科会の報告と質疑応答が行われ、2日間の日程を終えた。

各分科会のテーマ及び主な討議内容は、次のと

おりである。

第1分科会 「大学図書館へのニューメディアの応用」

ファクシミリ、CD-ROM、ビデオテックス、電子出版等のニューメディアの出現に伴う、これらニューメディアの大学図書館への応用の可能性及び大学図書館の機能・役割等への影響について討議。

第2分科会 「学術情報センター接続と図書整理の課題」

学術情報センター（NACSIS）との接続によるオンライン共同目録作業について、既接続館における現況報告にもとづき、問題点等を討議。

第3分科会 「小規模図書館（室）の電算化」

小規模図書館（室）における電算化事例を中心に、電算化における諸問題について討議。

分科会でのテーマに見られるように、ファクシミリ、CD-ROM等のニューメディアの出現及び学術情報センターとの接続によるオンライン共同目録作業の進展等の新しい技術革新の動きに対応して、大学図書館はいかにあるべきか、サービスのあり方等を討論の主眼とした今回の研究集会は、ほぼ期待どおりの成果をおさめ得たように思われる。

揺籃期の京都大学

－創立90周年記念展－を開催

明治30（1897）年6月18日、勅令第209号により設立された京都大学は昨年創立90周年を迎えました。

附属図書館では、毎年、テーマを選び本館所蔵資料を主とした展示会を開催しております。学外者にも一般公開するこのイベントは、大学図書館公開の一つとして好評を得ております。

今回は創立90周年にちなみ、京都帝国大学の創立前後から総合大学として四分科大学（理工科大学、法科大学、医科大学、文科大学）の設立までを取りあげ、明治期一草創期の本学の姿を示す展